

1. 職名・氏名 准教授 清水葉子

2. 学位 学位 修士、専門分野 経済学、授与機関 京都大学、授与年月 1994.3

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	金融論 (4 単位) 配当年次 2 年生
② 内容・ねらい	金融の基礎的な理論と、経済社会の中での金融の意義を理解する。金融の実際の制度や仕組みについて体系的に学び、理論に加えて、制度・歴史の知識の両方を深めることを目標とする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	講義に際して、毎回のテーマごとに理解すべきポイントを記した「講義メモ」と、それを裏付ける具体的事実(統計資料や報道など)を集めた「資料」を配布。学生には、毎回のポイントが理解できたかどうか確認しながら受講するよう指示。試験は論述形式で行い、議論の展開が理解できているかどうかを評価対象とする。 金融庁から継続的にゲストスピーカーをお招きし、学生向けの講義をしていただいている(約200名)。2018年度のみ、講義が後期開講となったことから、「経済政策」のゲストスピーカーとしておよびした。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	演習 I (4 単位) 配当年次 3 年生
② 内容・ねらい	金融の基礎的な理解とともに、金融関連の現実的な問題を取りあげて議論。前期は主にテキストの輪読、後期は新聞や雑誌記事もとりあげ、学生にはゼミ中の積極的な発言・議論を求めている。毎年3年次後期に、「SMAP インターゼミナール・コンテスト」に参加し、グループワークとプレゼンテーションの力をつける。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	演習後期には、新聞や雑誌記事をもとにして、「課題の発見→問題意識の醸成→事実の調査→考察→結論・提言」という思考過程を辿れるよう指導。学生が関心のあるテーマを見つけられたら、12月の「SMAP インターゼミナール・コンテスト」での研究プレゼンテーションにつなげる。 プレゼンテーションは、学生にとって大きな自信につながり、指導の手応えを感じる。学生が他のメンバーと議論しながら研究を進める場としてゼミコンを重視している。 2018、2019年度は、金融庁の方を演習 I にもお招きし、資産形成についての金融庁の考えを講義していただき、グループワークも行った。 4年生が先輩に就職活動の話をする「就活体験を先輩に話す会」を毎年開催。 卒業生を招いて仕事の話をしてもらう「先輩の話を聞こう!」を不定期に開催。2017年度は、2月に卒業生4名を招いた。2019年度は開催できなかった。
① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等	演習 II (4 単位) 配当年次 4 年生

② 内容・ねらい

卒業論文・卒業研究について、(1)テーマ設定、(2)資料収集、(3)研究の方向の決定、(4)中間発表、(5)最終発表、(6)討論を行う。卒業研究発表は全てのゼミ生が行い、必ずレジュメかプレゼンテーション資料に基づいて1時間程度の卒業研究発表をすることを義務づける。学生が各自の関心を発展させて掘り下げた研究を行なうことを目標とする。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

学生の関心を発展させるよう支援を行う。卒業研究発表に向けて個別指導を行うほか、卒業論文を提出する学生にもスケジュールに沿った指導を行なっている。卒業研究・卒業論文に対して、教員からと他のゼミ学生から講評を行う時間を設ける。前年の「SMAP インターゼミナール・コンテスト」で課題発見・事実関係の考察・結論という流れを身につけているので、各自が高いモチベーションを持って卒業研究発表を行っている。卒業研究を口頭発表することで満足してしまう学生が多く、卒業論文執筆者が少ないことが反省点である。

卒業研修では、2018、2019年度は日本銀行京都支店（京都市、大阪市）や島津製作所創業記念館の見学を行い、宿泊先で卒業研究についての討論を行った。

2017年度の演習 II は不開講とした。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
基礎ゼミ（2単位）配当年次 2年生

② 内容・ねらい

経済学の基礎的な考え方を理解させるため、毎年特定のテーマをとりあげて、基礎文献→現実のテーマへと掘り下げる。

2013年度以降は、健康保険制度を取り上げて、入門的な文献を輪読した後、負担の公平性、高齢者医療制度のあり方、混合診療の是非などについて、資料検索やグループワーク、討論を行っている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

テーマ選定にあたっては、事実関係に関する資料収集がしやすく、かつできるだけ賛否が分かれるものを取りあげることで、議論を促進するよう工夫している。資料は、制度の概観ができる基礎的な文献と、経済雑誌や新聞など時事的なものを両用するよう心がけている。

2年生向けであるので、少人数教育の場で意見を述べたり討論をしたりすることに慣れるよう配慮している。学生から多様な意見が出て討論が活性化するので、今後ともこの方針を継続したい。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
外書講読（2単位）配当年次 2年生

② 内容・ねらい

2018年度までは、“Statistical Handbook of Japan 2015”, Statistics Bureau, Ministry of Internal Affairs and Communication.”を用いて、日本の基礎的な統計（地理、人口からGDPや雇用などの一般的な経済統計まで）を輪読。さらに、①統計に関する基礎的な英語表現をカードを使って理解・記憶する時間を設け、②覚えた英語表現を使って、テキスト中の図表を英語で説明するプレゼンテーションを学期中に2回行う。英語プレゼンテーションには福井大学からネイティブの講師を招いて評価をしてもらった。松岡准教授と共同実施。

2019年度は、中期計画終了により、Michael Sandel (2012), "What Money Can't Buy"にテキストを変更。政治経済学の領域で意見が分かれやすいテーマを取り上げて輪読。学生には毎回著者の意見に対する賛否や根拠を示して議論してもらう。最終回でグループワークを行い、テキストに出てきたテーマを10あまりに整理した上で、グループごとに根拠を示して立論、自分たちの意見に対する反論とそれに対する再反論をプレゼンしてもらう。

③ 講義・演習・実験・実運営上の工夫

統計をテーマにした英語プレゼンテーション（松岡講師と共同実施）では、統計を説明するための特徴的な英語表現を理解することを目標にした。表現理解には松岡講師の発案で、カラフルな表現カードを用いてゲーム形式で行った。また、プレゼンを5名程度のチームで行うので、グループワークとしても機能して活発な議論が期待できる。複数教員間で、内容や進捗のコーディネート、外部講師との打ち合わせなどにかかなりの手間がかかる。

2019年度は、グループワーク形式に戻して、討論を行った。身近なテーマが多いことから、学生の間で賛否が大きく分かれ、活発な討論となった。数年前から、学生が英語文献の輪読の際に、機械翻訳を利用していることが増えていると感じる。

(2)非常勤講師担当科目

①担当科目名（単位数） 開講学校名

金融論（2単位）、福井大学（2002年から隔年、2018年まで）

②内容・ねらい

「金融論」は上記に同じ。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

「金融論」は上記に同じ。

④本学における業務との関連性

「金融論」は本学の4単位分の講義を2単位分に縮約して行っている。

(3)その他の教育活動

学生の自主的な学習・研究活動を支援する有志教員の活動 SMAP（Student Motivated Alternative Program）を通じた各種活動。「SMAP インターゼミナール・コンテスト」を毎年開催・参加。毎年60-80人あまりの学生が参加し、プレゼンテーション能力の向上に加えて、互いの研究内容を評価し議論をする良い機会となっている。学生自身の投票によって最優秀・優秀チームを表彰するほか、学外審査員を招いて特別賞も設け、学生のインセンティブとしている。終了後に講評冊子を発行している。

SMAPの活動として、学生自身の関心に基づいて時間割を組むことを勧める「逆引きシラバス」などを発行。

福井新聞との間でコラボレーション活動「XTRA」を境准教授と共同で開催。夜の新聞社見学（2018年5月）、授業への記者の招聘（2018年6月）、学生による記事執筆「大学生TIMES」（2018年10月掲載他）など。2019年度は他のゼミが執筆予定で、連携を担当。

就職支援のための活動として、①ゼミ内で4年生から3年生向けに就職活動体験を話す「清水ゼミ就職活動体験を聞く会」を毎年1月に開催。②ゼミ卒業生を招いて、在学生向けに仕事の話をしてもらう「先輩の話聞こう！」随時開催。2018年度、2017年度は2月開催（再掲）。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表

① 論文

② 著書

『図説アメリカの証券市場 2019年版』（分担執筆）、第2章「金融構造と証券市場」。(財)日本証券経済研究所(2019)

③ 学会報告等
④ その他の公表実績 「アメリカのリテール・ホールセラーについて」『証研レポート』2019年10月 「アメリカの取引所街取引システムの新しい届出制度について」『証研レポート』2019年6月 「ティックサイズ拡大の試験プログラム-SECの実証実験」『証研レポート』2019年2月 「アメリカのメイカー・テイカー手数料とパイロットプログラム」『証研レポート』2018年10月 「ダーク・プールとその規制について」『証研レポート』2018年6月 「ブローカー・ディーラーの注文回送について」『証研レポート』2017年12月
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動 証券経済学会全国大会コメンテーター(2019年5月)
学会での役職など
学会・分科会の開催運営
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加 「株式市場研究会」メンバー（公財）日本証券経済研究所主催（2005年～現在） 「証券経済研究会」メンバー（公財）日本証券経済研究所主催（2003年～現在）
② その活動による成果 研究会での主な研究発表 「リテール・ホールセラーについて」（2019年9月） 「アメリカATS（代替的取引システム）の新しい届出制度について」（2019年5月） 「ティックサイズ拡大の効果」（2019年1月） 「アメリカのメイカー・テイカー手数料について」（2018年9月） 「ダーク・プールとダークな流動性」（2018年6月） 「高頻度取引と市場構造」（2018年3月） 「ブローカー・ディーラーの注文回送慣行について」（2017年10月）
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
2019年度 委託研究費（20万円）（公財）日本証券経済研究所 2018年度 委託研究費（20万円）（公財）日本証券経済研究所 2017年度 委託研究費（10万円）（公財）日本証券経済研究所
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井県公共工事入札監視委員会委員(2011年～)。 福井県事業認定審議会委員（2011年～）。 福井県国土利用計画審議会委員（2019年～）
② 国・地方公共団体等の調査受託等

③ (公益性の強い) NPO・NGO 法人への参加
④ (兼業規程で業務と見なされる範囲内での) 企業等での活動 (公財) 日本証券経済研究所客員研究員 FBC 番組審議会委員
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等。
⑥ その他 金沢地方裁判所での裁判官・書記官向け講義「金融デリバティブの仕組みについて」(2017年11月)
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 COC+アオッサ講義「福井で働くということ」(2017年、2018年)
② 社会人・高校生向けの講座 開放講義(金津高校、2019年12月) 開放講義・大学訪問(福井南高、2018年8月) 開放講義(福井商業高、2017年7月)。 さばえライブラリーカフェ「日本銀行はマネーを増やすことができるか?～日本銀行をめぐる古くて新しい論争～」(2017年9月) 中央公民館勉強会「エルダーフェニックス」講義「日本銀行の金融緩和策とそのリスク」(2019年11月) 中央公民館勉強会「エルダーフェニックス」講義「働き方改革」(2018年10月) 中央公民館勉強会「エルダーフェニックス」講義「ビッグデータとマーケティング」(2017年9月)
③ その他
(3)その他(個人の資格で参加している社会活動等)

6. 大学の管理・運営

(1)役職(副学長、部局長、学科長)
(2)委員会・チーム活動 国際部会委員 2019年度 オープンキャンパス委員 2018、2019年度 インターンシップ委員 2019年度 学部内学生支援チーム 2017年度 教職課程部会委員 2017年度
(3)学内行事への参加 高校向け入試説明会(坂井高校 2018.7、武生東高校 2017.7) 大学開放講義(福井南高校 2018.8、福井商業高校 2017.7)再掲 新入生オリエンテーションツアー参加(2018年4月)

(4)その他、自発的活動など

- ① 学生の自主的な学習・研究活動を支援する有志教員の活動 SMAP (Student Motivated Alternative Program) を通じた各種活動。毎年の「逆引きシラバス」発行と、12月に行う「SMAP インターゼミナール・コンテスト」を通じた学生のプレゼンテーション能力向上。
- ② 「就活報告会」(4年生が就職活動経験を後輩に伝える場)の支援。
- ③ 「仕事の話を知ろう！」(ゼミ卒業生を大学に招いて仕事の話を知る会) 開催(随時)。
- ④ 「清水ゼミ就職活動体験を知る会」で先輩の就職活動体験を知る会を開催(毎年1月)。
- ⑤ 福井新聞との間でコラボレーション活動「XTRA」を境准教授と共同で開催。夜の新聞社見学(2018年5月)、授業への記者の招聘(2018年6月)、学生による記事執筆「大学生TIMES」(2018年10月掲載他)など。